

令和4年度 学校評価報告書 (実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが「確かな学力」を身に付け、自ら課題を発見し解決する力の育成を図るとともに、個に応じた学習機会の拡大を促す。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p>	<p>①確かな学力育成のために、個に応じた学習指導により基礎学力の定着を図る。「学びなおし」の視点から着実な学びを促進し、生徒が達成感を感じられる授業により学習意欲の向上を目指す。</p> <p>②生徒会行事の活性化を図り、引き続き生徒の主体的な活動を支援する。部活動では、生徒の自主性、主体性を育み、活動状況を校外に発信して活動を活性化させる。</p>	<p>①習熟度別授業で個に応じた学習指導を実施する。</p> <p>①各種検定等の受験を奨励し、資格取得を支援する。</p> <p>②生徒主体の行事向けの確に指導助言する。</p> <p>②部活動見学体験を実施する。また、各部の活動状況を大会情報などを集約し、校外に発信する。</p>	<p>①「生徒による授業評価」から個に応じた指導ができたか。</p> <p>①検定等への受験者は増加したか、取得率の向上がみられたか。</p> <p>②生徒会行事を通して、生徒の達成感や充実感を獲得できたか。</p> <p>②部活動加入率を向上させたか。</p>	<p>①数学、英語において習熟度別授業を展開し、個々に応じた指導を実施した。</p> <p>①教育目標を実現できる新教育課程の1年目を実施することができた。</p> <p>②生徒会行事を通して、生徒の達成感や充実感を獲得できた。</p> <p>②部活動加入率をほぼ向上させた。</p>	<p>①個に応じた指導を継続し、習熟度別授業等を通して学力の定着を進める必要がある。</p> <p>①令和6年度から募集を開始するインクルーシブ教育特別募集の生徒に対する教育課程の検討を進める必要がある。</p> <p>②生徒会行事を通して、生徒が主体的に行動し、達成感や充実感をより一層獲得できるように支援していきたい。</p> <p>②部活動加入率をさらに向上させ、生徒の自主性・主体性を育み活気のある学校生活を送らせた。</p>	<p>① 習熟度別の対応など、生徒の多様性に配慮した取組の充実は重要である。授業体制の継続と充実とともに、インクルーシブ教育に向けて、多様性に対する生徒・教員・関係者の中での理解や雰囲気醸成等、さらなる展開が期待される。</p> <p>① 小集団、習熟度授業の展開で生徒一人ひとりが自分のレベルにあった状態で課題を認識し、講習や補習によって克服できる取組や機会が得られている。</p> <p>① インクルーシブ教育を実質的なものとするため、単に同じ場所で集うだけでなく「共に学び合う」場となるような環境や条件を整えることが重要であり、特別募集で入学する生徒の実像を踏まえた上での検討が必要となる。インクルーシブ教育の目標は多岐にわたるが、具体的な目標設定と対応の経過や成果の評価を次のプロセスへフィードバックすることに重点を置くことが重要である。</p> <p>② 部活動の加入率など、実質的な変化を把握しながら進めていることが重要である。「加入」によって生徒が何を獲得しているのか(成長や達成感など)など、内容的な評価も今後の視野に入れることを期待する。</p>	<p>①個別の課題に配慮した学習指導について関係職員で情報共有に努め、学習評価の適正化が図られた。</p> <p>①インクルーシブ教育の推進に向けて、現状と課題を整理した。</p> <p>②感染防止対策を講じて体育祭、文化祭を開催することができた。</p> <p>②部活動加入率の向上に加えて参加生徒の達成感や満足度を今後の評価指標に取り入れる必要がある。</p>	<p>①「指導と評価の一体化」を一層推進するとともに個別の学習ニーズに配慮した学習指導を行う。</p> <p>① インクルーシブ教育を推進し、令和6年度特別募集生の受け入れ準備を進めていく。</p> <p>② 今年度の実施内容を検証し、次年度の企画に反映する。</p> <p>② 部活動の活動状況をホームページ等で一層積極的に発信し、学校生活の活性化を図る。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立を図り、モラル・マナー・ルールを守る自律した生徒の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対応した支援体制の充実を図る。</p>	<p>①規範意識の醸成を図り社会性を育む。</p> <p>①開発的生徒指導を展開し、判断力、行動力、課題解決力を育成する。</p> <p>②きめ細やかな生徒把握に努め、いじめや問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②SC,SSW と連携し自己理解を深める教育相談体制の整備を図る。</p>	<p>①教職員間の生徒情報共有を密にし、生徒への積極的な働きかけを行うことで生徒の自律性を促す。</p> <p>②SC、SSW や教育相談コーディネーターの役割を明確にするとともに連携を深め、生徒一人ひとりの状況に応じ、ケース会議を開くなど組織的な支援を行う。</p>	<p>①特別指導、学年指導、近隣苦情件数が減少したか。</p> <p>①生徒の自己理解を深めさせ、社会性の向上が図られたか。</p> <p>②SC、SSW との定期的なミーティングやケース会議が実施できたか。また、迅速対応できたか</p>	<p>①職員間での生徒情報を共有することができた。</p> <p>①特別指導件数、近隣からの通報件数が前年度とほぼ同数であった。</p> <p>①事案発生時は関係職員が連携して対応自己理解を深め、一人ひとりの生徒の社会性の向上を図った。</p> <p>②SC,SSW と連携し、生徒の個別の問題事項に対してきめ細やかな支援をすることができた。</p> <p>②いじめ案件に対しては迅速に対策チームを作り対応することができた。</p>	<p>①特別指導件数、近隣からの通報件数が減少するよう未然防止のための方策を検討する。</p> <p>②SC、SSW の個別対応事案が増加傾向にあるため、職員間での情報共有を図るとともに各事例を整理して分析する必要がある。</p> <p>②いじめを認知する前に生徒の普段の状況を把握して、いじめを未然に防止するように学年会等で日常的に生徒情報を共有していく。</p>	<p>① 通報件数の把握などにより取組の評価をしていること自体がとても重要である。また、関係職員の連携等柔軟な対応を可能にする体制を継続できるとよい。</p> <p>① コロナ禍で思春期を過ぎたため、心が疲弊している生徒も多いと思う。教職員が生徒一人ひとりに今まで以上に目を向け、変化に気づき、その情報を教職員で共有することはとても大事なことである。</p> <p>②SC,SSW の対応事案が増加しているのは、学校が多様な背景の生徒ニーズをくみ取って対応する窓口が機能していることの証左である。今後も継続と充実が期待される。</p> <p>② インターネット、SNSの普及により生徒間の関係性や校外での活動が分かりにくい状況で生徒にとって健全な環境づくりが課題である。</p>	<p>①登下校時のルールやマナーに関する指導は今後も継続して取り組むべき課題である。</p> <p>②生徒指導事案や教育相談事案に対して、的確な初動対応により未然防止が図られた。</p> <p>②ソーシャルメディアポリシーの醸成は今後も引き続き取り組むべき課題である。</p>	<p>①公下校時や自転車利用に関するマナーについては継続的に声掛けを行っていく。</p> <p>②個別事案を検証し、未然防止策を検討する。</p> <p>②SNSトラブルの防止に向けて適切な表現力、発信力の育成を図る。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現と社会的・職業的自立を支援する進路指導の充実を図る。	①進路実現に向けて、適切に進路情報を提供し、生徒一人ひとりに寄り添った進路指導を図る。	①適切な進路選択のため「総合的な探究の時間」を活用して長期的計画を立てる。 ①キャリアパスポートを活用し、持続的な職業観を育成する。 ①職業人インタビューを実施し「社会と情報」と連携しソーシャルスキルやプレゼンテーション能力を育成する。 ①行事等を通じた個人の成長をポートフォリオに記録させる。	①計画的な進路指導により生徒のキャリア形成に変容が見られたか。 ①生徒が自己の進路実現に向けて、情報を収集、整理し主体的に取り組んだか。 ①キャリアパスポートを活用できたか。 ①生徒一人ひとりのソーシャルスキルや社会人基礎力の育成を支援できたか。 ①ポートフォリオに記録を残せたか。	①年間計画に従って「総合的な探究の時間」を進めてきた。また、「進路の手引き」や「菅ナビ」を用いて定期的にポートフォリオを記録させ、一人ひとりの成長を振り返らせた。 ①オープンキャンパスだけではなく、Web 模擬授業、公式 SNS 等のオンラインを活用した情報活用を積極的に行った。	①大学入試日程の実態に沿った推薦会議や進路面談等を行うよう計画するため、来年度の年間行事再検討していく。  ①紙ベースでポートフォリオを記録させているが、今後、ポートフォリオをオンラインで実施し、学年を超えて引き継げるようにする。	① 生徒一人ひとりに対して社会的、職業的に自立し自己実現に向けて適切な支援がなされている。また自己実現の達成のために多種多様なツールが活用されている。生徒達には、新聞やニュース等から情報を得てグローバルな観点で自分の考えをアウトプットできるようになってほしい。 ① 進学、就職いずれにせよ、生徒の個性に応じたより良い選択がされるよう生徒に寄り添った指導が一層強化されることを期待する。 ①「ポートフォリオ」は個人の学びや自己実現に一貫性を持たせる有効な取組である。一方で、実効性のある運用には難しさもあるとも思われる。利用する生徒側からも「使い心地」についてフィードバックを受けつつ、さらなる拡充を期待する。	①生徒の進路希望に応じた選択がなされるよう、より一層個に寄り添った指導を行う必要がある。  ①ポートフォリオは有効に活用できたが、紙ベースであることに課題がある。  ①ポートフォリオの活用により自身の取組と成長の振り返りを支援する。BYOD 端末の活用でポートフォリオをオンライン化する取組を推進する。
4	地域等との協働	地域・保護者等との連携・協力を推進し、信頼される学校づくりに取り組む。	①生徒の活動や教育活動を積極的に家庭や地域に発信し、信頼される学校づくりを推進する。  ②ボランティア活動を通して近隣地域の方との交流を深め、地域貢献に努める。	①学校説明会や本校ホームページを充実させ、地域や保護者に向けて教育活動を積極的に発信する。  ②近隣地区の清掃活動や隣接する社会福祉施設のボランティア活動等に積極的に参加させる。	①本校の魅力、特色を効果的に広報できたか。  ②近隣の方との交流を通して、地域に貢献することができたか。	①学校説明会は生徒会役員と協働し、中学生・保護者に向けて本校の魅力や特色を効果的に伝えることができた。本校ホームページも行事や部活動を中心に更新頻度を上げることで積極的に本校の教育活動を継続して発信した。 ②コロナ禍で中断されていた地域貢献活動として、遊歩道ボランティア団体と協働し、近隣地区の清掃活動を行った。	①学校説明会で使用するPR動画を生徒会Gと連携し、より魅力的なものに更新する。  ②インクルーシブ教育の導入を見据え、社会福祉団体との交流も含めたボランティア活動を企画する。  ②地域交流やボランティア活動のノウハウは、関係グループやPTA 委員会で情報共有を継続し、さらに地域貢献の機会を増やしていく。	① 学校のPRや発信を、生徒会と共同しているのは画期的である。 ②福祉やインクルーシブ教育の在り方については、そもそも「障害」をどのように考えるかなど抜本的な議論と教育が必要となる。様々な企画の継続と充実が望まれる。 ② コロナ禍で難しかった地域との連携が徐々に回復する中、地域連携や近隣小中学校との交流がインクルーシブ教育推進につながることを期待する。 ② コロナの影響で校外活動は限定的であったが、今後は学校・保護者・生徒・地域がもっと密接に交流を深めるためにHPや学校説明会、ボランティア活用の拡充等が必要である。 ③ インクルーシブ教育推進のため、地域の範囲を広げて協力団体を求めることも必要になる。	①学校ホームページを計画的、効果的に更新し、生徒の活躍の様子を発信することができた。  ②ボランティア活動への参加が生徒の貴重な体験となることを再認識できた。  ②ボランティア参加を奨励し、生徒が活躍する機会の拡充を図る。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止対策の徹底を図る。  ②働き方改革、及びICT機器利活用等の教育環境の整備を推進し、円滑で効率的な学校運営に取り組む	①業務効率の改善と事故防止を一体として、業務改善を推進する。  ②授業を含めたICT機器活用に関する研修会を実施し、教育活動や学校運営の情報化を推進する。 ②私費会計処理を計画的かつ適正に行う。	①教務内規、成績処理マニュアル等を改善し、着実な業務遂行に努める。  ②ICT 機器活用に関する研修会を複数回実施する。  ②財務事務調査指導結果により職員間で課題を共有し業務改善する。	①入選業務や成績処理で効率化を進め、無事故を達成できたか。  ②教育の情報化推進により、教育活動や学校運営の効率化が図られたか。  ②適正な収支管理と業務の効率化の両立が図られたか。	①成績処理マニュアルや教務内規の改定を行い業務の効率化や事故防止体制の実現を進めることができた。  ②ICT 機器を活用した授業見学、公開研究授業を行い、授業改善に向けた研修を実施した。  ②業務効率の向上により関係職員の負担軽減、点検・監査業務の効率化がみられた。	①成績処理や入選業務において予定通り処理し、無事故を達成できるように引き続き努力を続ける必要がある。  ②教職員間の活用スキルの格差解消のため、ICTサポートチームを発足する。  ②収支計画により早期の予算執行に努め、より生徒活動へ還元できるよう執行体制を整える。	① 教職員の業務負担の軽減は、何よりも優先されてよい。教員側の問題だけではなく、生徒や保護者にも理解を求め、教職員の業務負担の軽減や適正化を期待する。  ②教職員の事務負担の軽減や働き方改革の推進、ICT 機器の活用により学習環境の整備・情報化の推進により学校運営が効率化し円滑に行われている。  ②徴収された私費会計について適正に収支管理がなされ、生徒活動や教育環境の整備の充実に活かされている。	① 成績処理、入学者選抜業務において、事前の作業手順の確認を徹底したことにより業務の効率化と事故防止が図られた。  ②業務アシスタントの業務補助により職員の負担軽減が図られた。 ②適正に収支管理されたが、支払いの遅滞が一部にみられた。  ①業務改善と事故防止を一体としてとらえ着実な業務遂行を行う。 ① 教育の情報化を一層推進し、学習活動の効率化と業務改善を図る。 ②執行計画を作成し、予算執行の適正化を図る。

